

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400183		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	グループホームまつかわ		
所在地	北海道函館市松川町41番17号		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191400183&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットの玄関に鍵がついていない自由な環境の中でホールや居室では素足や靴下で生活をして普通の家と同じように暮らしています。ただ何となく毎日過ごすのではなく、その方が出来ることを見出して入居者様と職員と一緒に家事などをしてその方が持っている力を活かして健康に暮らせる支援をしています。地域での活動に積極的に参加して、交流の場を大切にしています。その人がその人らしく、暮らせるお手伝いができるように職員全員が努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月に開設した当事業所は、今回が初めての外部評価である。運営母体が医療法人で、運営者の自宅と同じ敷地内にあり、1階を通所介護事業所、2階と3階をグループホームとして新築した事業所である。函館市内で多種にわたり高齢者福祉の事業を展開している運営者は、現在5階建ての病院をクリニックと介護保険施設として改築中である。法人本部の栄養士が作成した献立で、栄養のバランス・計算した塩分やカロリーで食事を作っている。利用料金も比較的低価格に抑えているのが特徴である。1年間の法人目標が事業所毎に定めてあり、管理者と職員は、①できないと決め付けない、②地域の参加と貢献、③スキルアップ、という3つの目標を目指し日々研鑽しており、利用者は人格と尊厳を守られながら、地域の一員として生活している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(2階 ひだまりアウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「人格・尊厳を守ります。笑顔あふれる空間を共に築きます。地域での社会参加を支援致します。いきいき暮らせる健康作りを目指します。」があり、全職員が理念の実践に向けて取り組んでいる。	利用者の人格と尊厳を重視し、笑顔と地域での社会参加、健康作りへの支援などを取り入れた、事業所独自の理念を作り、スタッフ会議の中で確認し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所は松川町に所属しており、町内会の清掃活動や花壇の花植え、お祭りや小旅行、住民の集い等、幅広く参加して地域の方々と交流している。	運営者が町内会長である環境で、お祭りや花壇の花植え、敬老会、町民の集いなど町内会行事には積極的に参加し、地域住民と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会のお祭りや花植え、清掃活動に入居者様と共に参加して地域への貢献を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。事業所での活動や避難訓練、インフルエンザ等の感染予防等々、色々なテーマで地域の方や入居者様、ご家族、行政の方々等に参加していただき、頂戴した意見を参考にサービス向上に活かしている。	市保健所担当者、包括支援センター、町内会、家族などの構成員が参加して2ヶ月毎に開催し、事業所の運営状況、行事活動、災害対策など多岐にわたり協議し、サービスの質の向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、担当者には相談や情報交換などをこまめに行うようしており、サービスの取り組みを伝えていく。	市保健所担当者とは、問題解決のための相談や、書類の不明瞭な点について実直に対応してもらえなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に事故防止・身体拘束廃止の委員会を設置しており、会議で検討した内容を全職員に周知している。又、当事業所各ユニットの入り口に鍵はなく、入居者様が2階だけではなく、気軽に3階にも行き来できるようになっている。他にスタッフ会議等でも意識の向上を図っている。	身体拘束については、新人研修や身体拘束委員会で検討した内容を全職員で共有し、スタッフ会議の中で意識の向上を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会で虐待についても話し合いがされている。他に管理者から職員への指導をしており、虐待防止に努めている。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が受講してきた内容を職員にもわかるようにファイリングしていつでも閲覧できるようにしているが今後は勉強会や研修会に職員も参加して、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の時は管理者からご家族へ説明を行っている。改定の時には文書をご家族へ送り、必要時には同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、アンケートを実施して意見を頂戴している。又、入居者様やご家族の要望は随時受けており、サービスの向上に繋げるようにしている。	家族アンケートを年2回実施し、意見や要望の把握に努め、管理者は日常の生活の様子と職員の異動などを便りで報告している。表出された課題については、家族の立場になって考えてほしい事を職員に伝えながら改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、管理者が職員に定期的に個人面談を実施しており、運営に反映させている。又、週に1度法人全体の会議に管理者が出席して事業所としての提案等を行っている。	個人面談やミーティングなどで職員の意見や提案を聴き、週1回の法人の全体会議で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課や個人面談を行い、個々の努力や実績、能力、勤務状況がわかる様になっている。又、職場環境や条件の整備に努め、働きやすく、やりがいが持てるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内だけではなく、外部の研修などにも積極的に参加するようにしている。救急救命などは内部で伝達講習会を開いたり、個々に介護技術や認知症ケアの指導を行い、技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会議に参加したり、介護支援専門員等の勉強会に参加して同業者との交流や情報交換を行い、色々な事業所の取り組みなどを参考にして、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談でご本人の要望等をお聞きして、十分なアセスメントを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談をして、要望等をお聞きしている。認知症があるのでご本人が上手く伝えられない場合にはご家族から、ご本人の生きてきた過程を教えていただき、理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族と話し合い、ニーズを聞き取り、見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から日常色々なことを学ぶ機会がある。又、理念に基づいて人格尊厳を守り、笑顔あふれる空間を共に築けるように努め、支援をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も可能な場合には社会資源として、介護計画の中のサービス内容で協力をいただいている。又、遠方や多忙なご家族のために手紙を代筆したり、写真付の手紙やクリスマスカードを入居者様と一緒に作成して郵送したりして、関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前と変わらない暮らしができるように支援に努めている。又、医療機関も当医療法人が主治医の方が多くは縛りはなく、他にかかりつけ医がある方は自由に受診していただいている。	家族からの情報や本人の会話などから、馴染みの人や場所を把握し、従来の美容室を利用したり、町内会行事の時に懐かしい人に逢うなど、継続的に交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係に配慮して、食事やお茶の時の席に座っていただいている。見守りや声掛けをしながら、良い雰囲気でも過ごしていただけるように努めている。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	このようなケースは今までになかったが、今後何か相談されることがあれば都度対応させていただきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にモニタリング・アセスメントを行い、ご本人やご家族と話しをして意向の把握に努めている。	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心を持ち、常に行動や表情・言葉などから真意を測り、それとなく確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴などをフェイスシートで職員全員が情報の共有をして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人のバイタルや排泄状況等を温度板に記入して、状態の変化を見落とさないように努めている。又、記録や申し送りでも把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットで定期的なカンファレンスやモニタリングを行い、担当者会議等で必要な意見を聞いたことなどを基に計画作成担当者が介護計画を作成している。	職員は、ケアチェック表にアイデアや気づきも含めて記録し、プランの変更時や更新時に反映させ、家族がカンファレンスに参加する時もある。担当者は包括支援プログラムのソフトを使い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実践しているが気づきや工夫についての記録の記入が足りない。記録の書き方などは管理者からミーティングなどで指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の会議で状態の変化などに合わせて、ホーム間での入居者様の移動が行われたり、都度柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や奉仕活動に参加することによって、個人個人が安心して安全で豊かな暮らしを送ることができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じて、かかりつけ医は個人個人で異なる。希望する医療機関で適切な医療が受けられるように支援をしている。又、相談や報告もできる関係を築いている。	運営母体が医療法人で、複数の医療機関と連携し情報の共有に努めている。本人や家族の希望で従来のかかりつけ医の受診は可能であり、職員は同行支援や代行支援をしている。	

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な医療連携看護師による訪問だけでなく、随時報告や相談などを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ介護添書などを渡している。入院中は面会に行ったり、ご家族に連絡をして状態の把握に努めながら、病院関係者との情報交換や相談をして関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に、重度化や終末期について説明を行っている。ご本人やご家族の意向に副えるように支援できる体制はあり、一部の方には終末期の意向を聞いている。	契約時に重度化や終末期についての指針を説明し、家族の意向を把握している。母体が医療法人であり、看取りのケアについての体制は整えているが、開設して日が浅く、職員との共有には至っていない。	管理者が、札幌市で開催する看取りに関する研修会に参加する予定であり、復命と共に職員の指導や共有に活かすことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開いたり、マニュアルが完備されているが今後も訓練や勉強会は可能な時に行うことが必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は1度避難訓練を行っている。2回目は3月に1階のデイサービスと合同で行う予定がある。法人本部が近いこともあり、避難の時に協力してもらえる体制がある。	今年度2回目の訓練を、1階事業所と合同で3月に実施する予定である。利用者の身元と連絡先を記入した名札を赤・青に区別して、身体的機能の目印にするなど、地震想定を含めた訓練を実施しているが、地域の方々の参加には至っていない。	近所の方々には訓練時に声掛けしているが、高齢化しており、参加までには至っていないが、町内会との連携で協力者の確保を期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「親しき仲にも礼儀あり。」を忘れないように、親しいからこそ踏み込んではいけな部分を理解して接するように対応している。	利用者を先輩として敬い、居室の戸を閉めて着替えたり、言葉使いが乱れる事のないよう、常に職員間で配慮し、人格を尊重したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を尊重して、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様、一人一人のペースを大切に個別に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでもらったり、出来ない部分は職員がお手伝いをして、ご自分でもおしゃれが楽しめるような支援をしている。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人で統一はされているが、毎月給食会議が行われており、管理者が栄養士に入居者の希望などを伝えている。食事作りや後片付けなどは、職員と入居者が一緒に行っている。	母体法人の栄養士が献立を作成し、個々に合わせてミキサー食、刻み食などを取り入れ、利用者は誕生会のメニューを楽しみにし、たこ焼きやたい焼きを作ったり、野菜を切るなど、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は毎日記録して把握している。又、栄養面は栄養士が作った献立でカロリー計算されており、バランスが取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは出来る方はご自分でしていただいているが職員も点検するようにしている。口腔ケアは個々に合わせて行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録を活用して声掛けや誘導を行っている。オムツから布の着になった方も数人おり、自立にむけた支援に努めている。	職員は排泄パターンを把握し、時間や顔色、耳の遠い方には頷きながら支援をしている。職員のアイデアで布パンツに変えたら、本人がトイレを使用できるようになった事例があり、自立に向けて取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を活用して水分量の把握や排便の確認をしている。他に腹部のマッサージや運動なども行って予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ユニットで1つの浴室の為、曜日は分けてはあるが、連携しながらその時の気分や体調に合わせて声掛けをしたり、入りたい時にいつでも入浴ができるようにしている。	2ユニットの事業所であるが、浴室が1箇所、シャワー室が1箇所ある。曜日は決めているが、本人の状況や希望で臨機応変に対応している。入浴が困難な時は時間を変えたり、楽しい話題に切り替えて支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息を取りながら、一人一人の体調や状況に合わせた活動をしてもらうことにより、夜もぐっすり眠っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は事業所で行っている。一人一人に合った服薬の支援を行っており、薬の情報は職員全員がファイルで共有できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を参考にしたり、一緒に行うことでその方ができることを見出すようにして、楽しく生活できるように支援している。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 ひだまり)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内会の日帰り小旅行へ出かけたり、季節で桜や紅葉を見に行ったり、初詣やどんど焼きに出かけている。天気が良い時に町内を散歩して季節の花を見たりしている。又、自由にご家族と外出や外泊もされている。	天気の良い日は、町内会の花壇を見に出掛けたり、近くを散歩したり、紅葉や花見など遠出のドライブを楽しみ、家族と外出や外泊も自由に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で個人の出納帳で管理しており、定期的にご家族へ確認をさせていただいている。ご本人の希望があるとご家族へ了解をいただき、いつでも使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望は今までないが、手紙は代筆と一緒に書いたものを出したりしてやり取りをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見渡しの良いホールと壁や廊下には手摺を設置している。食卓テーブルの他にソファや椅子を置いて、好きな所で自由に過ごせるようになっている。殆ど日中入居者様はホールで過ごしている。	2階と3階がグループホームで、玄関に可愛いお雛様が飾られ、広くて明るい居間には、訓練用の平行棒や滑車があり、リハビリができる環境である。利用者が折り紙で作ったお雛様や書道と行事の時の写真が飾られ、家具の配置も家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所に配慮して、楽しい時間が過ごせるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が家で使っていた馴染みの家具などを持ち込んでもらっている。	居室は、在宅当時のタンスや仏壇が持ち込まれ、転倒防止や安全確保のため、床に布団を敷いている利用者や、家族の写真を飾るなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどがわかるように掲示したり、手摺がついており、見守りや声掛けで安全に過ごしていただいている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400183		
法人名	医療法人 鴻仁会		
事業所名	グループホームまつかわ		
所在地	北海道函館市松川町41番17号		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2階 ひだまり ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191400183&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階 こもれび アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれび)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し職員が尊厳を守り、笑顔で過ごせる空間を、築けるように目指しています。地域での社会参加に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には挨拶をしたり、町内会の祭りや清掃活動に参加し、地域の方々との交流を深めるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会参加などを通して、町内の方々との相談窓口になるように、努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、議題になった避難訓練やインフルエンザの事など、参加された方の貴重な意見を頂いて参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各担当部署と、連絡を取り合い、協力体制を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、検討した内容を職員が周知している。日中は、いつでも出入りができ、開かれたホームになるように取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の講習等に職員が参加し、管理者や職員もケアの仕方や言葉遣いなどに気を配り、未然に防ぐことが出来るように努めている。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれび)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の講演会に参加し、活用出来るように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面談を行い、ホームの契約内容や緊急時の対応や日常生活、病院の受診など、十分に説明し、その都度疑問や不安な点を伺い、納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、御家族には、電話の際や、来訪時には要望などが無いかわい、サービス向上に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行い、職員の意見や提案などを報告したり、定期的に個人面談を実施し、運営に反映されている。また日常的に何でも言える環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課や面談を行い、各自が目標を持って働く環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修や講演会に参加し、法人でも勉強会が行われている。また、意欲がある職員には、希望する研修を受けられるように勤務調整をし、各自のケアの質が向上出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や研修会へ参加し、他のホームの職員と交流する機会がある。また、同一法人の勉強会へ参加し、情報交換を行って、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時に、十分に話し合い、御本人やご家族が安心し、暮らせるように介護計画書を作成し、信頼関係を得るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分話し合い、御家族の困っている事や職員に望む事などを伺い介護計画書に反映できるように対応し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族と相談しながら、まず何が必要なケアが見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、御本人の出来る事を見つけて、共に作業する事で、思いを知り、共に暮らしていく者同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や運営推進会議、ご案内の為、電話でお話しをする際に、ホームでの様子を御家族に報告し、情報の共有を行い、支えあう為の関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族を通して、知人に訪問して頂いたり、馴染みの病院受診など継続できるように支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事は入居者同士で仲良く行われている。日々の情報を共有化し、トラブルが起こらないように職員が間に入るような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれび)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも何かあったときには、相談対応出来る事を家族には伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人との関わりの中で要望や思いを聞いたり、コミュニケーションが困難な場合は御家族に聞いたり、日常の行動や表情の変化を敏感に察知するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人やご家族にどのような生活を送っていたか聴いて全員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人の生活リズムを大切に出来るよう努めている。決まり事をなるべく設けず、出来ること出来ないこと、楽しいこと、不愉快な事を見極めるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向を踏まえ、定期的にカンファレンスやモニタリングを行い、介護計画へ反映できる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って記録するように指導しているが、気づいた事など記入不足がみられる。また、ミーティングでも、見直しの必要性などを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人、御家族の要望に対して、出来る限り配慮しながら対応し、馴染みの病院受診時には支援もやっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や、清掃活動、餅つきなどを通して地域とのつながりを作っていけるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していた病院も含め、希望される医療機関で受診出来るように支援している。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、看護師に、気軽に気づいた事や健康管理について相談し、24時間のオンコール体制を行い支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、御家族と連絡を取り、御本人が安心して過ごせるよう対応し、入院先の医師や看護師と連携し早期退院に向けた取り組みをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に見取りの方針についての説明をおこなっている。御本人や家族の意向に沿うように支援出来る体制はある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故に備えマニュアルを用意し、日頃より意識し、実践できるように職員は、救命講習会に参加し、ホーム内でも勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて消防立合いの下、避難訓練を行い昼夜を問わず、入居者様が安全に避難できるように取り組んでいる。また、1階のデイサービスや同法人の病院との協力体制が出来ている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、個々の人格を尊重し、その人らしい日常生活が送れるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、声掛けや会話の中で、入居者様の思いを引き出せる環境に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや希望に合わせてその方らしい生活が出来るよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気候や体調に配慮した服装の声掛けをし、選んで頂いている。また、希望を伺い、マニキュアなどのおしゃれを楽しんで頂いている。出張理髪店など希望に沿って支援している。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれび)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員も一緒に食事を頂き、お話しをしながら時間を過ごしています。食事の準備や片付けは、入居者様と行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、バランスが取れている。温度板に水分量、食事量を記入し、入居者様の状態に合わせて対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力量に応じて支援をし、毎食後歯磨きやうがいを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	温度板に、その都度記録をして、個々の排泄パターンを把握している。御本人の様子なども伺いながら、介護計画書を立て支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日運動や食事や水分量に気をつけながら、温度板で個々の排泄パターンを把握し、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、声掛けをして希望に沿った支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の体調に合わせて、体操や家事などを手伝ってもらい事により安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報をを入れ、職員が薬の用法、副作用を把握し、いつでも確認出来るようにしている。服薬時には、確認し見守りや等介助を行ない対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて役割やゲームや工作などを行って頂き、入居者様が楽しめ有意義に過ごして頂けるように努めている。		

グループホーム まつかわ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階 こもれば)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればなるべく浴うようにし、職員と近所の公園へ散歩に出かけたり、市民の森や函館山など出かけ紅葉を見たりしている。又、御家族と一緒に外出や外泊もされている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じて支援している。お金の管理は管理者が行っており、台帳管理や残高確認をして御家族に連絡を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は対応し、お手伝いさせて頂いている。クリスマス等は、カードを入居者様と職員が一緒に手作りし、郵送するなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、入居者様が集まりやすいようにテーブルや椅子の配置をして、入居者様と季節感を大切にし、寛げる空間作りを行っている。温度、湿度など、時間を決めて、それ以外にも気づいた時に点検している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間に畳やソファを置き、居場所に配慮をして、気の合った方同士や個々で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた家具を持ち込んで頂き、同じような配置や好みの品を置いてもらい、居心地良く過ごして頂けるよう配慮を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、ホールより見渡すことができ、役割をする際にも死角が少なく、安全に暮らしていけるよう工夫を行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム まつかわ

作成日：平成 24年 3月 28日

市町村受理日：平成 24年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	町内会との交流は多く、こちらから出かけることが主となっているが、事業所に町内の人に来ることが運営推進会議以外では少ない。避難訓練や町内のボランティア等の協力が得られていない状況である。	開かれた施設として、多くの方に訪問してもらえる雰囲気作りをする。多様な場面で地域とお互いに協力し合える体制を作る。	町内会の各部門への呼びかけや近隣住民との交流が増えるように事業所での行事などに招待するなど、具体的に行っていく。	1年
2	33	開設して1年が過ぎようとしているが、看取りと聞いてもどのようにしていくのかわからない職員が多い。	重度化・終末期でのチームで取り組む支援について学ぶ。	勉強会を開いたり、外部での研修会などへ参加する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。